昭和七年六月創刊
廣島女學院報
昭和廿八年十月復刊

広島女学院報
HIROSHIMA JOGAKUIN NEWS

第 198 号　2023年度 春号
学校法人 広島女学院発行
〒732-0063　広島市東区牛田東四丁目13-1

神とともに紡ぐ営み

広島女学院
ゲーンス幼稚園長
古重歌織

2023年度４月１日より広島女学院ゲーンス幼稚園の園長としての歩みを与えられ、大切なバトンを引き継がせていただきましたことへの感謝と情熱を持って責務を果たしたいと思っております。私自身幼少期をゲーンス幼稚園で育てていただき私が私らしく歩むことを保証されて過ごした感覚が今も自分の中に生き続けています。その経験を通してどのような出来事と出会ってもそこには神様のご計画がありいつもいつの時も安心して歩みなさい、と共にあって下さる、そのような営みを与えられていますこと感謝しています。私のような小さな存在もこの場で用いられ神様の導きの中で、幼児教育に関わる者として必要とされている働きは何であろうか祈り、問い続けてまいります。

新年度が始まったある日曜日の朝、教会へ出かける前に幼稚園の「ぼうけんの森」へ足を運んだ時のこと。木々の間を陽の光が通り抜け、朝の明るい森の空気を体全体に吸い込んでいると、そこには鳥のさえずりがまるで「森へようこそ！」と歓迎してくれているような感覚に包み込まれる特別な時の流れがありました。その日、森へ向かったのには、いくつかの探し物があった為ではありましたが、新入園の保護者対象入園前アンケートで、園選びの理由として「自然豊かだから」という回答が最も多く、改めてその理由を自分自身の体で感じるためでもありました。

「自然豊か」、保育界では「豊か」という言葉をあらゆる場面で用います。豊かさとは、物が豊富で心の満ち足りているさま、不足のないさま、十分であり余るさま。（広辞苑）ともあります。誠に自然から与えられている豊かさは無限であり、常にわれわれ人間に学びを与えてくれる場であり存在であると感じています。それは勿論、人間にとっては危険だと捉えられる生き物との出会いや危険な場所での過ごし方も含めてです。また、森の中で風を体に受けた時その強弱を感じたり、風の運ぶにおいを感じたり、風が揺する葉が肌に触れる感覚や、風の動きを目や耳で感じる、「ゆらめく葉が語り合っているよう」と風の表情を読み取ろうとする感情、風を感じるという感覚すら忘れてしまっている時も確かにそこには何らかの流れが存在しているはずです。そこに足を運ぶだけで言葉では言い尽くせない心の充足感があるのです。その魅力も「豊かさ」を生み出す要因となっているのかもしれません。

神様の下さる自然への畏敬の念を持ち、目には見えなくとも自分の想像をはるかに超える特別な力、存在、その中に身を委ねることで、その人がその人らしく歩む喜びを感じられ共に育ちあえる園でありたい、と同時に園にかかわる人々の生涯にわたる礎となり共に成長させていただく場でありたいと願ってやみません。我々を取り巻く様々な環境の中でいかに豊かさを見出し、それを周りの人々と分かち合うことができるのか、ひいては身近な人を大切に思うように遠く離れた地の人々へ思いを馳せ、祈り、自分なりの行動を起こし、平和をつくり出すものとしての働きを一人ひとりが担うことのできる存在へとなっていく。個々のあり方を認め合い成長を支えるその一端を担える保育・教育の果たすべき役割の大きさを改めて実感しています。

被爆二世である我が身の存在意義を熟考し、世界平和実現の為に成すべきは何であるか学びを継続しつつ、かけがえのない今この時を過ごす園児、生徒、学生とともに各校部の特色を生かしながら一つひとつの課題に丁寧に向き合い歩みを進めていく学院でありたいと思っています。

学び多き子どもの園　緑に包まれた幼稚園園庭

2023年度運営体制

理事長	中川日出男
院長・学長	三谷　高康
中学高等学校校長	渡辺　信一
幼稚園長	古重　歌織
専務理事兼法人事務局長	海田　智浩

大　学

副学長	田頭　紀和
副学長	小林　文香
人文学部	
人文学部長	渡邊ゆかり
国際英語学科長	磯部祐実子
日本文化学科長	足立　直子
人間生活学部	
人間生活学部長	下岡　里英
生活デザイン学科長	真木　利江
管理栄養学科長	佐藤　　努
児童教育学科長	加藤　美帆
大学院	
言語文化研究科長	柚木　靖史
人間生活学研究科長	市川　知美
図書館長	三木　幹子
総合研究所長	三木　幹子
大学宗教委員長・宗教センター長	粟津原　淳
障がい学生高等教育支援室長	山下　京子
総合学生支援センター長	市川　知美
入試・広報センター長	田頭　紀和
キャリアセンター長	細田みぎわ
エンパワーメントセンター長	細田みぎわ
研究支援・社会連携センター長	入江　直子

中学・高等学校

高等学校教頭	高見　知伸
中学校教頭	渡部　　新
教務部長	山縣　　泉
進路指導部長	久保　光章
広報部長	濵岡由希子
生徒支援部長	川鍋　元広
グローバル教育推進部長	野中　理恵

幼稚園

幼稚園主事	久保木裕子

法　人

歴史資料館長	蒲原　靖男

新任者のご紹介

(2023. 4. 1付)

粟津原　淳	大学教授 （国際英語学科）
溝口　嘉範	大学准教授（管理栄養学科）
DURO Agota	大学助教（国際英語学科）
梅田　玲奈	中高常勤講師（聖書）
新谷　萌絵	中高常勤講師（国語）
吉田　有香	中高常勤講師（養護）
本多　美智子	中高教諭(保健体育)(常勤嘱託教育職員)
鶴田　さと	幼稚園教諭（任期付教員）
加茂　真衣	幼稚園教諭（任期付教員）
勝田　千尋	大学実験実習担当（常勤嘱託職員）
山本　美稀	大学実験実習担当（常勤嘱託職員）
米澤　菜穂子	法人事務局・大学管理部総務課職員（常勤嘱託職員）
松井　悠夏	法人事務局経営企画部経営企画課職員 兼 大学経営企画部学長室職員(常勤嘱託職員)
藤堂　杏奈	法人事務局・大学経営企画部人事・会計課職員（常勤嘱託職員）
佐藤　美樹	総合学生支援センター教務課職員（常勤嘱託職員）

左から順に（敬称略）
1列目）　海田専務理事・法人事務局長、渡辺校長、中川理事長、三谷院長・学長、古重園長
2列目）　玉理オルガニスト、米澤、Duro、梅田、松井、山本、勝田、藤堂、前田宗教委員
3列目）　粟津原、加茂、吉田、溝口、鶴田、本多、新谷、佐藤

新任者あいさつ

大学 国際英語学科
粟津原 淳

3月まで牧師、とある女子大学の講師、そして通算30年ほどは診療放射線技師と、三足の草鞋で過ごしてきました。多彩な出会いと様々な働きを知ることができたのは何よりの恵みです。女学院でも学生をはじめ、多くの方々と出会えることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

大学 管理栄養学科
溝口 嘉範

岡山市保健所で24年間、食品衛生や感染症の業務に従事してまいりました。ご縁あって女学院大学に赴任し、今、学生の礼儀正しさ、教職員の皆様の優しさを感じているところです。これまでの実務経験を活かし、学院の皆様とともに学生の教育および学院の発展に貢献したいと思いますので、よろしくお願いします。

大学 国際英語学科
DURO Agota

私はハンガリー出身で、もともと外国語と歴史に関心を持ち、ハンガリーの大学で英語とアメリカ研究を専攻し、2010年に弘前大学に留学する機会がありました。その時広島の原爆投下について学ぶことによって平和な世界の重要性を認識し、2014年に広島市立大学の大学院へ進学し、原爆被害者に関する研究に従事しました。今年の4月から広島女学院大学で教えることを大変嬉しく思い、学生さんに英語の楽しさと平和な暮らしの大切さを伝えたいと思います。

中高 養護
吉田 有香

高校保健室　養護教諭の吉田有香です。この度、ご縁があり、長年憧れていた広島女学院で働かせていただくことに大変感謝しております。これからの社会を担っていく、光り輝く生徒の成長を近くで見守る仕事に喜びを感じています。私ができること、保健室から心身の健康のサポートに精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いします。

中高 聖書科
梅田 玲奈

今年度より、聖書科を担当いたします梅田玲奈と申します。私は広島女学院中学高等学校の卒業生で、聖書に初めて出会ったのも女学院でした。こうして、再び女学院へと招かれて働きが与えられたことに喜び、感謝し、祈りながら生徒・教職員の皆さまと共に歩んでいけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

中高 国語科
新谷 萌絵

母校である女学院に迎えられ、その教育に携わる機会をいただけたことを光栄に思います。相手が何を考え、どのような思いを持っているのかを読み取る力をつけることにおいて、国語は欠かせない科目です。生徒の皆さんとの出会いに感謝し、それぞれの学びや挑戦の手助けができるよう一日一日を大切に頑張ります。

中高 保健体育科
本多 美智子

母校である広島女学院の一員になれたことに感謝し、保健体育の授業を通して皆さんに向き合い、寄り添いながら私自身も成長していきたいと思います。よろしくお願いします。

幼稚園
鶴田 さと

この度、広島女学院大学を卒業し、広島女学院ゲーンス幼稚園にて働かせていただくことになりました。毎日の生活の中で子どもたちと新しい発見をたくさん重ね、感動を分かち合いたいです。「成長させてくださったのは神です」の聖句を心にいつも留めながら子どもたちが心と身体を目いっぱい動かして遊べるようサポートしてまいります。

幼稚園
加茂 真衣

子ども一人ひとりにとっての"今"を大切にして共に遊びを楽しみ、時には悩み、考え、成長していける、そして子どもの成長を支えることが出来るよう尽力してまいります。また、私自身キリスト教に初めて触れる為子どもたちと過ごす中で神様との対話（お祈り）を意識して大切にしていきたいと思っております。

大学実験実習担当
勝田 千尋

広島女学院大学を卒業し、管理栄養士として働いておりましたがこの度、母校で働くことになり大変嬉しく思っています。

私自身、授業を通して学生のみなさんから教えられることもたくさんあり日々勉強させていただいています。

これから一緒に成長していけるのを楽しみにしています。

大学実験実習担当
山本 美稀

私は広島県の公立高校で家庭科教員として3年勤務していました。ご縁があり広島女学院大学へ赴任することになりました。助手として陰から学生をサポートし、「わからない」を「わかる」に変えられるようにしていきたいと思います。日々精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

総務課
米澤 菜穂子

この度、母校である広島女学院の総務課で働かせていただくことになり、このご縁にとても感謝しております。私自身、大学での学生生活はとても充実した4年間でありました。現学生や今後入学してくる学生の皆さんの学生生活が充実したものになるよう尽力することで、恩返しができればと思っております。

経営企画課 兼 学長室
松井 悠夏

情報管理センターの担当として、学生や教職員の皆さまの力になれるよう、日々成長していきたいと思っています。まだわからないことも多く、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

人事・会計課
藤堂 杏奈

この度、人事・会計課に配属されました、藤堂杏奈と申します。

三月まで派遣社員として勤務しておりましたが、ご縁がありこちらでお世話になる事となりました。これまで教えていただいた事を糧に、今後も一層頑張ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

教務課
佐藤 美樹

明るく楽しく仲良く元気に頑張ります。

サーロー節子氏　名誉学位授与式・記念講演会　2023年5月15日(月)

サーロー節子氏 名誉学位授与式の報告

大学宗教委員長　粟津原　淳

サーロー節子氏に本学で最初の名誉博士号を授与する学位式が、キリスト教礼拝形式で下記の通り執り行われました。

日　　時：2023年5月15日(月) 13:00-13:30
場　　所：砂本記念講堂
列 席 者：574名(学生449名、役員40名、教職員85名)
司　　会：人文学部長　渡邊 ゆかり
合　　唱：広島女学院大学聖歌隊
奏　　楽：オルガニスト 玉理 照子

前　　奏	キリストのへいわ	オルガニスト
讃 美 歌	294番「みめぐみゆたけき」(ゲーンス先生 愛唱歌)	一同
聖書朗読	マタイによる福音書5章9節「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」	大学宗教委員長
祈　　祷		大学宗教委員長
合　　唱	Let there be Peace on Earth	聖歌隊
式　　辞		学長　三谷　高康
学位記授与		学長　三谷　高康
校歌斉唱		一同
祝　　祷		大学宗教委員長
後　　奏	「地には平和」による祈り	オルガニスト

三谷学長 式辞(要約)

「広島女学院大学創立から74年の歴史において最初の名誉博士号を、サーロー節子さんに送ることができますことは喜ばしいことであり、この授与が最もふさわしい卒業生になされることを大変うれしく思います。

実はこの学位授与が実現するためには時間がかかってしまいました。学位を差し上げることは3年前には決められておりましたが、その後のコロナ禍によって日本とカナダ双方の出入国が難しくなる中、延期せざるをえない日々が続きました。

しかし3年間の世界情勢を考えてみますと、この待つ時間は無駄ではありませんでした。ウクライナでは核兵器の使用がほのめかされるなかで、G7サミットが広島で開かれようとしています。まさにこの時において、核兵器の廃絶に尽力しておられるサーロー節子さんをお迎えできたのは、大変意義のあることです。

1945年8月6日、広島女学院では330名の生徒と20名の教師が犠牲となりました。生徒の多くは1年生で、箸が転んでもおかしい多感な年頃の少女たちでした。サーロー節子さんは同窓生たちの悲劇とともに、核兵器使用の恐ろしさと惨状を世界中に伝えてこられました。広島女学院の歴史において大切な平和を、長年にわたって訴えてこられたことに感謝するとともに、広島女学院の娘であるサーロー節子さんをお迎えできたことを大変うれしく思います。」

「名誉文学博士」の証書を持つ三谷学長とサーロー節子さん

サーロー節子さんには、名誉文学博士号の学位記ならびにアカデミックガウンと専攻分野の文学を表す白色のフードが授与され、列席者と共に平和への祈りを新たにしました。

記念講演会「我らは神と共に働くものなり」に励まされて

大学宗教委員　前田美和子

名誉学位授与式後、会場にノーベル平和賞授賞式のスピーチが流され、続いて記念講演会が行われました。

まずご自身が被爆時に、崩壊した建物の下から軍人さんの声に導かれ、光に向かって這い出ることで命を得られたこと、戦後12年間は占領軍から被爆者やジャーナリストの文筆活動が抑圧されていた中で、多くの被爆者が再生を目指して立ち上がったことが語られました。

サーロー節子さんもまたその様子に触れ、愛する人たちを犬死させてはならないと誓い、怒りや悲しみも愛の行動となって社会を変える力、必要なエネルギーの源泉になれると確信して、声なき死者の声として生きる道を選ばれました。米国留学時には、米国の水素爆弾の実験を批判したことでバッシングを受けて苦悩されたものの、被爆者としての使命感を新たにされたそうです。

また、2017年の国連における核兵器禁止条約の採択は、ICANの若い世代のactivismによるものであったことが語られ、我々に次のようなメッセージを送ってくださいました。「学生の皆さんの周囲には多くの専門家たちがいらっしゃいます。その先生方の支えを得て、長年の日本政府の矛盾に満ちた核政策をしっかり学んでください。被爆者に会い、その記憶と思いを受けついでください。仲間と繋がり、さらに世界にも同志を求めて議論を深めてください。そして政府にあなたの声を届けてください。」「何年にもわたって、核の被害者は非核による平和というトーチを掲げてきました。(中略) 核兵器禁止条約のような新たな扉を開けることもできました。皆さんの中に、私たち被爆者から奮い立つ力を得る人がいて欲しいと思います。しかし今、私たちも皆さんから奮い立つ力を、インスピレーションを得る必要があります。このトーチを受け継いでくれる、より若い、より強い手が必要です。全世界でトーチの光が見えるよう、高く掲げて欲しいと思います。」

大変力強いスピーチに、会場は大きな拍手に包まれました。サーロー節子さんは活動の中で、苦しい時や投げ出したい時にも、死者の記憶や「我らは神と共に働く者なり」という本学のモットー、聖句に絶えず励まされたそうです。本学で学ぶ者として、世界と未来をつくる一員として、愛をもって社会を変えていく大きな使命と課題をいただきました。

学生に向けて熱く語る様子

大学院生中野唯さんの花束贈呈

サーロー節子氏　歓迎レセプション・中高特別礼拝　2023年5月15日(月)、16日(火)

“Chest up!” 広島女学院の強い絆を感じたレセプション

国際英語学科　大崎 美佳

広島女学院関係者ならびに竹内同窓会長や岸田裕子首相夫人など各方面で活躍されている同窓生の方々も交え、レセプションが催されました。サーロー節子さんのテーブルには歓談中、人々が絶え間なく訪れ、丁寧に談笑されている姿そのものが平和の象徴であるかのようでした。

司会進行を務めさせていただく中、ミニスピーチの時間となりました。サーロー節子さんの話してくださった、講演会とはまた違うご自身の体験談や溢れ出る思いは、それは参加者の心に深く響くものでした。「聞いたというだけではなく、ここから行動を起こしてほしいんです。」サーロー節子さんのこの言葉がとても印象深く心に残っています。サーロー節子さんが語り続けるのは、若い世代の人たちに、被爆者の平和への思いのバトンを受け取って行動を起こしてほしいという一心からにほかなりません。

私が翌日の授業で、節子さんのその思いを学生たちに伝えた時、皆、真剣に耳を傾け、頷いてくれました。平和のためにできること、大切なことを伝えていくことが、一人、また一人と繋がっていき、大きな力になっていくのではないでしょうか。

サーロー節子さんを囲む同窓会の方々

この素晴らしい機会に接し、サーロー節子さんを始め、同窓生の皆さんと言葉を交わして感じたことは、広島女学院の同窓生の皆さん一人一人が持っている女学院生としての誇りとそして強い絆でありました。初代校長ゲーンス先生が生徒に贈った言葉として今も広島女学院の教育の中で大切に語り継がれている“Chest up!”（うつむくのではなく、胸を張り、顔を上げて、一人の女性として自信をもって歩んでいこう!）という言葉を改めてかみしめ、新たなる希望を胸に前に進んで行こうと思えた一日でした。

サーロー節子さんをお迎えして ～中高特別礼拝～

高校教頭　高見 知伸

特別礼拝に先立ち、新年度を迎えた4月から5月上旬にかけ、全生徒がドキュメンタリー映画「ヒロシマへの誓い　～サーロー節子とともに～」を視聴する機会を持ちました。生徒が任意で寄せた感想からは、サーロー節子さんの信念と行動力に感動を覚え、発する言葉ひとつひとつを心に刻み、同じ女学院で学んでいることを誇りに思うと同時に、語り継ぐことの重要性も映画からしっかり学んだことが読み取れました。

そして、満を持して迎えた5月16日。礼拝の前に「読書の時間」にご著書の「光に向かって這っていけ」の抜粋を読みました。いよいよ特別礼拝。最初に320番「主よみもとに近づかん」を歌いました。この讃美歌はサーロー節子さんにとっては特別な意味を持ちます。被爆直後、次々と亡くなっていく同級生のために生きながらえた友達と歌ったのだそうです。歌い終わると、サーロー節子さんはとても感慨深い表情で、少しの沈黙のあと、「今、胸がいっぱいでどのようなことばで私の心のなかの思いを伝えていいか戸惑っています」と始められました。そして、「私もあなたたちと同じように、何十年か前、ひとりの生徒としてここで初めてキリスト教に出会いました」と続けられました。中高時代の思い出、被爆当時のこと、ICAN（核兵器廃絶キャンペーン）の世界中の仲間と核兵器禁止条約成立に向けて活動したこと。活動するなかで被爆体験を話したり、様々なことを聞かれたりすることは今でも辛いそうですが、それでも語り続けるのは人とのつながりに支えられてきたからなのだそうです。また、女学院で出会ったキリスト教から隣人愛や命の尊厳を学び、平和実現はそこから始まると力強く言われました。最後に「過去を忘れないこと、過去から学ぶこと、これがあなたたちの未来につながります」としめくくられました。

質疑応答では高1生が「東京の大学生と話をしたとき『核廃絶は可能なのか』と聞かれました。サーロー節子さんならどう答えますか」と尋ねました。サーロー節子さんは「核廃絶はできるかできないかではない。するかしないかだ。あのようなことは二度と起こしてはいけない。非人道的な兵器を許すわけにはいかない。廃絶しなければならないのです」と答えてくださいました。

中学の礼拝ではノーベル平和賞受賞記念のメダルを見せて下さいましたが、もっと近くで見てみたい中学生が応接室に押しかけ、メダルを触らせていただいたり、握手をしてもらったりと、さながらロックスターのようで、サーロー節子さんもニコニコして生徒を見つめておられました。

女学院をあとにする直前には慰霊碑に献花されました。そして、原爆によって死没した同級生ひとりひとりのお名前を愛おしそうに指でなぞり、絞り出すように「胸がいっぱいです」とおっしゃいました。

5月16日は広島女学院にとって、かけがえのない日となりました。この学校がつないでくれる過去と現在。そしてどんなに歳が離れていても、ともに未来を築く「女学院生」であることにあらためて感謝し、それぞれのところにあって、ひとりひとりに授けられた賜物を生かし、仕え合える者でありたいものです。

生徒に語りかけるサーロー節子さん

メダルを手にする中学生と談笑

大　学

2022年度 卒業証書・学位授与式

副学長　小林 文香

3月15日（水）に4年ぶりに、保護者も参列して、従来の形式で卒業証書・学位授与式を執り行うことができました。

三谷高康学長は式辞で詩篇34編15節「正義を行い、平和を追い求めなさい」に触れ、「平和」を意味するヘブライ語「シャローム」は「完全」を意味する「シャレム」から生まれた言葉であり、「人が『完全になるとは』とは、神の作られたそのままの自分を、あるがままの自分を受け入れることであり、それが『完全』シャレムであり、その状況が『シャローム』つまり『平和』につながる」と説かれました。そして、あるがままの偽らない飾らない自分に誇りをもって人生を歩んでほしいと、卒業生にメッセージを贈られました。

答辞では平田美月さんが、コロナ禍で過ごした大学生活を振り返り、苦難の中でも自分のぶれない信念を育て歩んできたことを誇りとして、4月から新たな世界に歩み出したいと抱負を語りました。

卒業式後は、暖かい日差しのもと、卒業生の明るい声が響いていました。

2023年度 入学式

副学長　小林 文香

4月4日（火）4年ぶりに、新入生ひとりひとりの名前を呼び、本学に迎え入れる形での入学式が執り行われました。

三谷高康学長は式辞で、校母ゲーンス先生が広島の地で始められた、パイオニア精神にあふれ、国籍や文化の違いを超えて多様性を認め合い、寛容と柔軟性を持つ女性を育む教育は、ゲーンス先生の自立した、ぶれない個としての生き方から生まれたものであると述べられ、ゲーンス先生のスピリットを受け継いでほしいと述べられました。

在学生による歓迎の辞では、下土居咲耶さんが、大学生活を通して成長した自身の姿について触れた後、大学でしかできない経験を通して、多様性への理解を深め、寛容と協働の精神を育む、新しい出会いを大切にしてほしいと、新入生にメッセージを贈りました。

桜の花びらが舞う中、無事に入学式を終えたことに感謝いたします。

広島女学院大学と山口ファイナンシャルグループ 3社との包括連携協定の締結

副学長　田頭 紀和

広島女学院大学は、2月22日（水）、山口ファイナンシャルグループ（YMFG）傘下の株式会社もみじ銀行、株式会社YMFG ZONEプランニング、株式会社データ・キュービックの3社との間で、地域経済発展に向けて「包括連携協力に関する協定書」を締結しました。

この協定は、若い女性人材を育成する本学と、地域社会を金融で支えるもみじ銀行、コンサルティングの視点から地域活性化を後押しするZONEプランニング、地域企業をデータ活用の面から支援するデータ・キュービックという4者が、それぞれの持つ強みを生かし、地域を活性化させる女性の育成を行うことを目的としています。

現在、広島の地においても、人口減少や少子高齢化、さらには急速に浸透する情報技術の展開など、社会の課題や変革が顕在化しております。こうした社会情勢の中で、地域を支える企業と密接に結びついた教育は、大学において必要不可欠となっております。今回の協定に先立ち本学ともみじ銀行は、尾道市因島の地域企業の行う「しまなみリーフの販売促進に向けたレシピ開発」で

連携した取り組みを行ってまいりました。この取り組みは、知識や技能の修得だけではなく、主体的に社会の課題に取り組む姿勢、積極的な意識を学生に芽生えさせることにつながりました。また、本学が注力している「伝える力の育成」の場として、社会とつながり、社会に伝える経験の機会にもなりました。こうした実績も踏まえ、今回の連携協定を機に、学生の育成に向けて社会連携の機会をより拡大していきたいと考えております。

今後の展開として、本学学生への金融教育（もみじ銀行）、地域活性化に向けた産学の協働の機会の創出（ZONEプランニング）、企業データを活用した実践的な情報教育（データ・キュービック）を開始する予定にしております。

今回の包括連携協定をもとに、地域社会に求められる実践力を持った学生の育成に取り組むとともに、学生の将来を見据えた自分づくりを後押ししたいと考えております。

大　学

アメリカでの短期海外研修実施報告

国際英語学科　磯部 祐実子

新型コロナウイルス感染症の影響で中断していた海外研修も、2022年度からは短期のプログラムを再開することができました。2023年2月中旬から2週間、アメリカでの語学研修を実施し、9名の学生が参加しました。本研修では、カリフォルニア州立大学サンマルコス校で英語の授業を受け、ホームステイ先でのホストファミリーとの生活で異文化を体験します。授業内外で大学のスタッフや現地の大学生ボランティアが関わってくださり、学生たちの視野が広がり、アメリカ社会や文化についての発見はもちろん、学生自身の自己発見につながるような様々な活動や機会を設けてくださり、短期間でも学生が充実感と自己の成長を感じられる内容になっています。

引率を担当した中島義和教員による、研修を通して見た学生たちの様子をご紹介したいと思います。

「本研修を通して、参加した学生個々が何らかの成長を遂げたと感じています。英語力に関しての向上や動機付けの高まりはもちろんのこと、他者への目・気・心配りや表情等の態度面の成長も印象的でした。また、隠れた能力が開花し始めた学生が見られたのも興味深かったです。担当として引率したことで、本研修の意義と価値を自ら実感することができました。ぜひ多くの学生に参加してほしいです。」

現地の大学生やスタッフに向けて広島を紹介する英語のプレゼンテーションを終えて―達成感と安堵感

身の周りのものから課題を発見する力を養う―大久野島体験報告―

日本文化学科　足立 直子

日本文化学科では、2023年、「うさぎプロジェクト」を立ち上げました。コンセプトは「今年の干支であるうさぎを通して、日本文化について一緒に考えよう！」です。その第1弾の企画が「大久野島体験」、第2弾が「うさぎのイラスト作成」、そしてこれらの成果を用いながら第3弾「オンライン型オープンセミナー動画の制作」と進めて参りました。

大久野島はうさぎの島としても世界的に有名で、たくさんの愛らしい野生のうさぎと触れ合うことができます。また、かつて日本が秘密裏に毒ガス兵器を製造していた当時の建物が点在しており、平和学習の観点からも意義深い場所です。

3月13日（月）、学科学生とともに14名で大久野島に訪れました。前日までの雨も上がり、海を見ながら爽やかな風をあび、気持ちのいい一日でした。まず、学生たちは、持参した餌をうさぎにあげることを楽しみ、かつ、平和について思いを馳せる時を持ちました。特に「毒ガス資料館」では、日本の加害の側面について真剣に考えることができました。

大久野島での集合写真

長くコロナ禍での自粛生活が続いていたこともあり、学外での今回の体験は、学生たちにとって本当に印象深いものになったようです。今後も身の周りのものから課題を発見する力を養うことができるよう、このような場を提供し続けていきたいと思います。

建築士課程の取り組み

生活デザイン学科　塚野 路哉

建築士課程では、建築を志す高校生に向けた特設ページを開設しました。一級・二級建築士の資格に関することや、建築士課程のカリキュラム、海外で実施する建築見学研修、卒業生からのメッセージの他に、特任教授である窪田勝文先生のスペシャルインタビューも掲載しています。

（URL: https://www.hju.ac.jp/faculty/hlc/irad/）

こちらからアクセスいただけます

また、建築士課程では「ライフキャリア特別セミナーⅠ」として、夏期に海外フィールドワークを計画しています。世界の著名な建築作品を訪問し、実際に空間を体感することで、建築への理解を深めます。事前学習にて建築作品を分析し、造形や建築家の思想などの独自性をしっかりと学ぶとともに、事後学習では各自の体験を言語化して、振り返りのプレゼンテーションを行います。今年度はDDP東大門デザインプラザ、ミメシスアートミュージアム、リウム美術館、SAYA PARK ART PAVILION、梨花女子大学校、ソウル大学校美術館など、韓国の現代建築を数多く訪問する予定です。

ライフキャリア特別セミナーⅠの様子は、建築士課程の特設ページにも掲載する予定です。ぜひご高覧ください。

大　学

2023年 管理栄養士国家試験結果および新年度開始のご報告

管理栄養学科　佐藤 努

2月26日（日）に実施された第37回管理栄養士国家試験では、管理栄養学科では、58名が受験し、50名が合格しました。本学科ではこれまでの間、学力上、合格するには厳しいと思われる学生を途中で無理に諦めさせることはせず、やりきる意思が強いのであれば、最後まで応援し、支援し続ける体制をとって参りました。区切りよく2010年から数えますと、新卒として合計937名が受験し897名が合格しています。そして、最近10年間の合格率平均は95.8%となっています。

今春卒業した4年生も、力を合わせて学修の日々を送りました。合否という点では、一時的に道は分かれましたが、受験者58名全員の自己研鑽の日々は事実であり、その実績が今も彼女たちの毎日を創っており、未来へと繋がっています。私たち教員は、これまでの管理栄養学科卒業生全員を誇りに思うとともに、消えることのない一人ひとりの研鑽の実績が、明るく強く、彼女たちの未来を貫く力になることを信じています。

管理栄養学科オリキャンの様子

今春入学した管理栄養学科1年生46名の学びも、昨年末開講の入学前プログラムから始まって、もう数ヶ月になりました。色づいた蕾が花ひらくように、表情も明るく柔らかくなり、歓迎行事のオリエンテーションキャンプを経て、元気に溢れてきているようです。

幼大連携による地域貢献と実践力を高める学び

児童教育学科　加藤 美帆

児童教育学科では、ゲーンス幼稚園との幼大連携の取り組みに力を入れており、そのひとつに、「オープンガーデン」のボランティアスタッフがあります。ゲーンス幼稚園の「オープンガーデン」は、土曜日の午前中、未就園児（0・1・2歳児）の親子を対象に、幼稚園の園庭、ホール、ぼうけんのもりなどを開放して行われているイベントです。学生たちは、毎回ボランティアスタッフとして参加し、自分たちで企画した遊びのコーナーや、大型絵本の読み聞かせなどを担当させていただいています。

この活動を通じて、3歳未満児やそのきょうだい、保護者と実際に触れ合うことのできる貴重な機会を得ています。その中で、学生たちは、遊びの支援と見守りのバランスや、遊びの中でどのように親子の関わりをサポートすればよいのかについて体験をとおして学んだり、幼い子どもたちとのコミュニケーションの取り方、遊びに誘うための手遊びや言葉かけの実際について理解を深めたりしています。

オープンガーデン 2023年1月21日（土）

児童教育学科は、これからもゲーンス幼稚園と共に手を携え、地域の子どもたちの健やかな育ちと保護者の子育てを支える地域貢献活動に取り組みながら、保育者・教師をめざす学生たちの実践力を総合的に高めていきたいと考えています。

.

大学宗教委員長就任の挨拶

国際英語学科　粟津原 淳

アゼルバイジャンで殉教したイエスの弟子タダイに捧げる教会として、68年頃に建てられた聖タデウス教会や、最初期アルメニア教会のひとつゾルゾル礼拝堂は、イラン北西部の荒涼とした山地にあります。

拠点となっている町マークーで一番の高級レストランを訪れた時のことです。オーナーははるばる日本からやってきた私をとても喜び、「今宵は店の客ではなく、わたしの客となってください。すべておごりです！」と言うではありませんか。旅をしていてぼったくられることはあっても、ただで料理をオーナー自ら振舞ってくれたのは初めての経験でした。

イランの方々はとても親切です。ある町で出会った老人には、「旅人をもてなすことがムスリムの務めであり、名誉なのだよ」と言われたことがあります。創世記18章には旅人に扮した主と御使いを、それとは知らずにアブラハムとサラがもてなす話があります。イエスやパウロも、旅人をもてなすことにしばしば言及しています。

ある出会い:イラン・タブリーズにて

ゾルゾル礼拝堂

「もてなす」ということは自分を脇に置き、相手を尊重して大切にする態度です。その人々の心に触れた時、旅は深い出会いと気づきを創り出すきっかけを与えてくれます。様々な出会いが生み出す喜びを、広島女学院の皆様と共に実現していきたいと願っています。

中学・高校

高校卒業礼拝

校長　渡辺 信一

3月1日（水）、高等学校第75回生の卒業礼拝がゲーンス記念ホールで行われました。188名が満面の笑みで礼拝に臨み、希望に向かって胸を張ってこれからも確かな歩みで進むであろう姿がそこにはありました。

第75回生の生徒はコロナ禍のために中学卒業から高校入学にかけて試練の時を過ごしました。中学卒業礼拝は簡略化したもの、高校入学直後は2か月間の休校。そのような苦しい時に耐え、様々な葛藤を抱えつつも、それでも前を向き一日一日を大切に過ごしてきた学年です。卒業生代表でその歩みを語ってくれた藤田未来さんの言葉から、その貴重な歩みがわかります。以下に一部を引用します。

『私自身、GI (Global Issues)に所属したものの、例年予定されていたイベントの中で中止になってしまったものが数多くありました。形は違ったかもしれませんが、本当に多くの貴重な経験をしました。以前の私は、本や教科書に書いてある事実、授業で習った考え方をそのままに受け取っていただけでした。知識をただ、ごくん、と丸呑みしていただけで、自分の狭い世界からしか物事を見ることができていなかったと思います。例えば、「貧困に苦しんでいる人たちは可哀想だ」「彼らはユニセフなどの大きな機関からお金を支援してもらえば幸せに暮らせて、世界は平和になる」「工場から二酸化炭素が放出されるのだから、工場の人が悪い」。そのような安易な結論に達して、ものを考えた気になり、しかも自分の安易さに気づいていませんでした。しかしGIに入って、平和や人権、核兵器廃絶について学んでいく中で、私はさまざまな疑問を抱くようになりました。貧困層と位置づけられた人々を、自分たちのものさしで「不幸である」と決めつけてしまっていいのか。お金を渡すことだけが貧困層を救うことになるのか。今私は、食べ物や生活用品を何不自由なく手にしているけれど、一方では、劣悪な環境下や、低賃金のもとで働かざる得ない人々の命が、確かにある。物事の“構造”を学び、考える中で、私の世界は一次元から二次元、さらに三次元、四次元と、多元的になっていきました。自分の無力さを痛感し、しょんぼりしてしまうこともありました。でも私は、「今知っている知識でも、違う角度から見ると、どんな世界が見えてくるのだろう」とワクワクしながら考えることがどんどん増えていきました。このようなGIでの経験は、私の根底となる考え方を変え、出会うものすべてを新鮮で輝いたものにし、今から生きていくべき姿勢を教えてくれました。』

何かに取り組むこと自体に苦しみもがく時期があっても、Chest Upの精神を忘れず、自分らしく歩んだことが伝わってくる内容です。

卒業生には、広島女学院でそれぞれが大切にしたことを巣立った後も大切にしてほしいこと、また広島女学院とつながり続けることの意義を伝えました。自己責任が問われるような競争社会、先行きが不透明な時代にあるからこそ、覚えておいてほしいと思います。そして、「一人ひとりはとても尊く、かけがえのない命を持つ。あなたたちは希望です。」というメッセージを卒業した後もいつまでもいつまでも送り続けたいと思います。

中学入学礼拝

中学教頭　渡部　新

4月7日（金）、桜の樹々が初々しい若葉によって新緑に覆われた中、177名の新入生を迎え、入学礼拝を行いました。パイプオルガンの調べ、讃美歌が流れる中、厳かな雰囲気でよいスタートとなりました。

昨年度まではコロナ対策で入場の制限があり、入学礼拝も縮小されたかたちでおこなわれていましたが、今年度は従来通り、讃美歌や校歌もしっかり歌うことができました。渡辺校長、三谷院長よりメッセージもいただきました。また、在校生代表である中3の先輩は、女学院での出会いや新たな価値観に触れることを通して、ともに実りある「種」を育てていきましょうと、力強く新入生に語り掛けていました。新入生も年齢の近い先輩からのメッセージに、希望をもって新しいスタートができたことと思います。

中学・高校

第2回探究フェス

探究活動推進委員会　皆本 陽子

3月15日（水）、第2回探究フェスが行われました。開会式では、清教学園中・高等学校教諭であり、図書館振興財団教育支援室で兼務されている片岡則夫氏に講演していただきました。中3以上の生徒は、片岡氏の共著『中高生からの論文入門』を参考に探究活動を行っています。片岡氏は清教学園での探究活動の事例を紹介されながら、探究で大事なポイントをお話してくださいました。「自分の興味を大切にした探究を行うことが、自分の未来を招く」との言葉から、生徒はこれまでの自分の探究を振り返り、これから行う探究への希望を見出していました。

その後、各学年の代表者による発表が行われました。昨年度は午前だけの発表でしたが、今年は午後も開催することにより、生徒は自分の興味に合致した発表をより多く見に行くことができました。

中1は碑めぐり案内のスライド発表を教室で、ヨーロッパ調べとミョウバン結晶作成のポスター発表を体育館1階で行いました。中2は体育館2階で、原爆観や理科自由研究のポスター発表を行い、国語や歴史で行った探究活動の作品展示も行いました。中3は中学校での学びのまとめとして取り組んだ卒業論文と、理科自由研究のスライド発表を行いました。自由研究では広島市科学賞に入選した生徒の発表もありました。

高校生は自分が関心のある社会問題や、進路に合わせ、中学生より自由度の高い探究活動を行い、その成果を個人やグループでスライドを使って発表しました。高校生の発表は平和や人権、環境問題のようなテーマだけでなく、オタクやディズニーなどサブカルチャーをテーマとした探究もあり、中学生の聴講者もたくさんいました。自分の興味あることを探究しているからこそ、発表者も生き生きと発表し、聴衆を魅了していました。

片岡則夫氏による講演

中3卒業論文スライド発表

中2ポスター発表

2回目の開催を終え、改善すべきことはまだあるものの、発表する生徒にとってもそれを聞く生徒にとっても学びの多い時間であることを実感しました。反省や発見をもとに、よりよい第3回を開催できるよう、新年度での取り組みを深化させようと思います。

カケハシ・プロジェクト

グローバル教育推進部　ジェラルド・オサラバン

3月15日（水）から22日（水）まで、本校高校1年生3名と高校2年生6名は福山市立福山中・高等学校の生徒9名と一緒に、外務省主催の「カケハシ・プロジェクト」でアメリカのニューヨークを訪れました。約1週間という短い期間でしたが、生徒たちはアメリカの生活のさまざまな側面を体験し、またニューヨークの生徒たちに日本の魅力の一端を伝えることができました。

最初に訪れたニューヨークのダイソーUSAでは、店内を見学し、アメリカでのビジネスの仕組みを学びました。また、取締役の一人から、日本人がアメリカの日本企業で働く生活について話を聞きました。その後訪れた国連では、神聖な敷地を歩き、テレビでしか見ることのできない場所を実際に見ることができ、感動を覚えました。

ユダヤ人遺産博物館では、ユダヤ人の悲惨な歴史について学びました。ある生徒は、「試験のためだけでなく世界平和のために、世界の歴史を深く理解し、もっと学ぶべきだと思う 」と言っていました。その他、パークアベニューの日本領事館を訪れました。総領事館の仕事内容やそこで働く方々のやりがいを聞くことができ、とても有意義な時間でした。

現地の高校生と

自由の女神

また、この旅の目的の一つである現地の高校生と交流をするため、イーストサイド・コミュニティ・ハイスクールに行きました。授業に参加したり、広島や日本についてのプレゼンテーションをしたりすることで、本当の意味での両国の橋渡しができたと思います。また土曜日は現地の高校生と一緒に校外に飛び出し、タイムズスクエアや本場のニューヨークの料理を食べたり、市内を巡りました。新しくできた友人と一日中学校の外で過ごすことで、友情をさらに深めることができました。観光地を訪れることも大切ですが、新しい人に出会って話をすることこそ、この旅の特別な魅力だと改めて感じました。この貴重な経験は、将来、世界で活躍する人材になるために役立つことでしょう。

中学・高校

カンボジア研修

グローバル教育推進部　宇津 剛

3月26日（日）から31日（金）にかけて、中3から高2の生徒17名が、カンボジア研修に参加しました。普段の学校生活では決して経験できない、多くの貴重な学びの機会となりました。

プログラム前半は、主にカンボジアの伝統文化について学びました。アンコールワットなどの建築物や伝統舞踊を間近で見ることで、個々の建築物や細かな所作に込められた願いや意味を全身で感じることができました。

プログラム後半は、主にカンボジアの社会問題について学びました。行政の最前線で解決にあたっている環境省や女性省の職員の方々から、直接レクチャーを受けることができました。日本にいては分からない問題の背景や、担当者の抱えるジレンマに触れることができました。また内戦時の収容所を直接体験されたチュン・メイさんのお話を聞き、改めて平和の尊さやそれを維持することの大切さについて考える機会となりました。

現地の高校生と

同世代の若者と交流する機会も多くありました。日本語を学んでいる生徒や、公立高校の生徒との交流、ヒロシマハウスの訪問では、言語や文化の違いを軽々と乗り越えていく、たくましい姿を見せてくれました。

クラタペッパー訪問

研修は終わりましたが、生徒たちにとってはこれが出発点です。今回の研修を通じて学んだことを、これからの学校生活や将来に活かしていってほしいと思います。

マウントユニオン大学研修

グルーバル教育推進部　星野 ゆり

長らくコロナによって延期となっていましたが、この春無事にマウントユニオン大学研修を行うことができました。今回の研修には高校2年生から3年生合わせて10名が参加し、3月22日（水）から4月3日（月）までの日程で、シカゴと、オハイオ州アライアンス市に位置するマウントユニオン大学を訪問しました。最初のシカゴ都市研修では、有名な屋内外アートや建築物、摩天楼などを見学し、名物のディープディッシュピザを堪能するなど、大都市シカゴならではの魅力に触れることができました。マウントユニオン大学では、講義に参加して大学生と平和について意見交換をしたり、広島や女学院を紹介するプレゼンテーションを行いました。また、地域のフードバンクでお手伝いをしたり、ロータリークラブや学校を訪問する機会を通じて多くの方々との貴重な出会いがありました。異文化の中で様々なことに触れ、それらを実際に肌で感じ、そこから得た学びはこれからの人生の中で大きな糧となっていくことでしょう。

シカゴ都市研修

マウントユニオン大学学生と

このプログラムのために全力でサポートしてくださった方々、家庭を開放して優しく受け入れてくださったホストファミリーの皆さん、そしてコロナの不安が残る中、かけがえのない経験となることを信じて生徒たちの背中を押し、見守ってくださったご家族の皆さまに心から感謝いたします。

幼稚園訪問

高2 Global Issues（GI）ハワイ研修

グローバル教育推進部　加藤 弘輝

GI生の一つの集大成として4月1日（土）～6日（木）にハワイ研修を実施しました。生徒は次のように振り返っています。

「真珠湾を訪れることで、第二次大戦をアメリカ側から学ぶことが出来ました。海底に沈む戦艦アリゾナを見た瞬間は胸が苦しくなったと同時に、現地でこそ分かることがあるのだと痛感しました。また戦艦ミズーリに突撃した日本の特攻隊を米軍が水葬したということが印象的で、敵同士であったにも関わらず命を重んじていたことに感銘をうけました。

次にハワイ大学での授業です。英語しか通じない環境で行われていく授業はとても刺激的で、テンポよく会話ができたときには舞い上がるほど嬉しかったですが、感情の微妙な差異など伝えたいことが半分も伝わらず、それが逆に私の英語学習への意欲を増していきました。

ハワイ大学での研修

戦艦ミズーリ

またハワイの方が重視しているAloha spiritについて教えてもらいました。ハワイで充実した時間を過ごせたのは、このおかげだったと思います。隣人愛と似ているこの精神を、私もこの精神を忘れずに行動しようと思いました。

ハワイに行っただけで終わりにするのではなく、これからの学校生活にいかしていきたいです。」（高3　山島雫）

3年ぶりの実施となりましたが、とても意義のある研修であると再認識しました。お世話になった方々、ありがとうございました。

幼稚園

LOVE&PEACEコンサート

教諭　梅田 桃香

聖バレンタイン（バレンチノ）司祭の命日を迎える2月第2週を幼稚園ではLove&Peace Weeksと呼び、各クラスでそれぞれに愛と平和について考え、表現することに取り組んでいます。

1995年終戦50周年を迎えたこの年に始まった愛と平和をテーマとしたLOVE&PEACEコンサートが、今年度3年ぶりに保護者をお招きして、2月に開催いたしました。今も世界では争いや災害などで深い悲しみ、痛み、苦しみの中におられる人々がたくさんいます。そのニュースを聞く度に、『平和ってなんだろう？』『自分たちに何かできることはないかな？』見たことも会ったこともない人たちのことを自分のことのように考え、思いを馳せ、話し合い、祈ることを子どもたちと共に繰り返してきました。

「平和って大好きな人たちが嬉しい気持ちで過ごせること」「地球が綺麗だとみんなが気持ち良いね」「友だちとけんかしても仲直りして笑顔で遊べると嬉しい」「困っている人を見つけたら、大丈夫？って声をかけてあげる」「小さい子が泣いていたら、手を繋いだり抱っこしてあげると安心するよ」「世界中のみんなが友だちになれたら戦争なんてなくなるし、けんかしてもすぐ仲直りできるのにね。」この小さな願いが世界へ広がっていき、子どもたちの生きる未来が愛と希望に溢れた平和な世界となりますように。

コンサートは学年ごとの笑顔と歌声のステージ、ゲスト新井美奈さんの奏でる美しいピアノの音色に包まれ、会場にいる一人ひとりが心合わせて平和を願い、祈る時となりました。

今日も子どもたちは、たくさんの愛の中で心動かしながら周りの人とつながり合い、幼稚園で思い切り遊び、学びを深めています。この日常にある一つひとつの出会いを大切に、これからも子どもたちと共に歩んでいきたいと思います。

ゲスト新井美奈さんによるピアノ演奏

アンコールはみんなで「ぽよよん行進曲」

友だちと一緒に心合わせて歌うって、楽しいね!

被爆アオギリとの出会い

教諭　柳田 皓佑

2月に年長児は平和記念公園に行き、被爆アオギリと出会いました。子どもたちは縦に裂けているアオギリを見て改めて原爆の威力や恐ろしさを感じたようです。そして、ある子どもが上を見上げ、その割れ目から伸びる一本の太い幹を見つけました。戦争という悲惨な過去を乗り越え今日まで力強く成長した姿は、まるで明日へ希望を抱く私たちを表しているようです。

幼稚園に帰った子どもたちは園庭に植えてある被爆アオギリ二世をいつも以上に大切そうに見つめていました。

その後、今一度平和について話し合う時を持つと、「なかよくしたらいいと思う！」や「みんなにやさしくすること」などという声が挙がりました。友だちと意見を交わすうちに自分自身が平和をつくり出す一員であることに気が付いた様子の子どもたちです。これからも、子どもたちがアオギリのようにたくましく育ち、まずは身近なところから平和をつくり出していくことを願っています。

被爆アオギリと対面し話を聴く子どもたち

幼稚園

第61回卒園礼拝

教諭　橋本 佳南

3月17日（金）、春の眩しい日差しの降り注ぐ幼稚園で、年長組69名の子どもたちが、卒園の時を迎えました。遊びを通して様々な世界に触れ、出会いや発見に心動かす時があれば、園生活をつくりだす中で、気持ちがぶつかったり互いに助け合ったりして心も体も大きく成長してきた子どもたち。礼拝に臨む卒園生たちの顔は、緊張だけでなく晴れやかで誇らしげな表情も見られました。園生活の様々な出来事を糧に、それぞれ歩んでいってほしいと思います。礼拝の中では、子どもたちから、園生活を支えてくれていた保護者の方へ感謝の気持ちが伝えられ、ともに新しい場所へと旅立つ高田元園長には、子どもたちの言葉をちりばめて作った歌がプレゼントされました。温かい雰囲気の中、喜びあふれる1日となりました。

たくさんの「ありがとう」を伝えたね!

園を巣立った子どもたちの歩みが、これからも、神様のお守りと豊かな祝福のうちにありますように、お祈りしています。

第62回入園礼拝

園長　古重 歌織

4月12日（水）前夜からの強い雨が降り続く中で迎えることとなった2023年度の入園礼拝の朝。新入園児さんを迎えるころには雨も上がり陽射しも感じられるようになりました。まるで嵐が過ぎ去り新たな一歩を踏み出すことを後押しされているような感覚を抱いたのには、コロナ下での分散行事を行っていた2019年度以来の合同礼拝の時を持てたからではないかと感じています。家族の皆さんに愛され、神様の守りの中で成長してこられた尊い存在であるお一人おひとりをお迎えすることができました。

期待に胸膨らませ、濁りのない美しい瞳であらゆるものを吸収し、何事にも真剣に向き合おうと探索意欲旺盛な子どもたち。彼らの姿から学ぶ姿勢を大切に、本園の教育活動の柱であるキリスト教精神に基づく歩みを重ね、神様との対話を中心に共に成長させていただきたいと思っています。

新たな出会いの中　はじめの第一歩

いと小さきものと共に
―130周年に寄せて記念誌出版―

主事　久保木 裕子

2021年度、広島女学院ゲーンス幼稚園創設130周年を迎え、これを記念し3年間で小さな本を3冊出版いたしました。2020年度「水辺の物語」、2021年度「つながりというたからもの」、2023年度「ぼうけんのもりへようこそ～自然との対話による遊び環境づくり」、これで130周年記念誌3部作が揃いました。携わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。そして言い尽くせないありがとうの気持ちを込めて、前園長高田憲治からの挨拶を皆さまにお届けしたいと思います。

「いと小さきものを大切にしてくださる神様。小さな本に詰まった神と共にある働きを、多くの人と分かち合えたらと願っております。現在の幼稚園の一人ひとりの子どもの姿、一つひとつの取り組みは、これまでの歩みとすべての出会いから生まれ、これからの営みとつながっていきます。今この時も、広島女学院の幼稚園を覚え、支えてくださっている方々に、広島女学院の幼稚園の「今」を形にして手渡すことで、その感謝を表したいと願っております。これからも本園につながってくださる皆様の上に、神さまの祝福が豊かにありますようにお祈り申し上げます。」

法　人

◆寄　附

5月17日受付分まで。
（順不同・敬称略）

広島女学院のために
100,000円　藤川　昭代

広島女学院の教育のために
20,000円　前田　瑞枝

被爆バイオリンの維持・修繕のために
20,000円　一般社団法人ヒロシマ国際作家協会

広島女学院大学のために
700,000円　株式会社アボアエンジニアリング
500,000円　匿名
300,000円　サーロー節子
7,321円　広島女学院大学マンドリンクラブOG会
ファミーリア・デロ・マンドリーノ
3,000円　匿名

中高教育充実のため
100,000円　サーロー節子
100,000円　吉長 あけみ
30,000円　吉田　瑠美
30,000円　轉石　善博
10,000円　山地 佐和子

食堂運営補助費として
1,000,000円　広島女学院大学協力会

ゲーンスチャペル音響設備修繕のため
500,000円　澤村　雅史

宗教委員会の働きのために
7,000円　敬和学園大学

アイリスセンター維持のため
600,000円　広島女学院同窓会

人権・平和関係書籍のための本棚設置費用として
100,000円　刀祢館　美也子

中学バレー部の活動のために
35,000円　顧問矢野文雄先生
1983年中学卒業バレー部一同

卒園証書カバー代として
113,091円　広島女学院ゲーンス幼稚園 みぎわ会

学生教育のため
肖像画（ペスタロッチ2点、フレーベル1点）
鈴木　道子

キリスト教教育活動のために
ヒムプレーヤー　アン・ケーリ

幼稚園教育充実のため
田島征三 絵本『つかまえた』原画、
Sony ハンディカムビデオカメラ・三脚、
アンリ人形 Let's Play、アンリ人形 Perfect Day
高田　憲治

幼稚園教育活動のため
室内遊具セット
（交通標識と信号、ミニドール、ミニカー、ロードシステム、木の時計、包丁・パンナイフ、クラック（ボードゲーム））
広島女学院ゲーンス幼稚園 みぎわ会
マグネットモザイクボードとタイルセット
広島女学院ゲーンス幼稚園 みぎわ会
年長保護者有志

寄贈図書として
ラジオ中学生の基礎英語レベル1-2、
ラジオ中高生の基礎英語in English各12冊
廣文館
「九条家歴世紀録 6」　宮内庁書陵部
「臨床哲学」　立正大学文学部
「ヘミングウェイ批評」　戸田　慧
「言霊はゆく」　原田　佳子
「シャラの花咲く家」　片山　美代子（葉山　弥生）
「広島」　夕凪社　広島俳句協会
「呉市史 資料編海軍 1」　呉市
「A Passage to Self in Virginia Woolf's Works and Life」
同志社大学　臼井雅美

◆表　彰

永年勤続者
30年勤続者　西口理恵子　古重　歌織　川口早香美
中塚　成美　宇都宮真紀
20年勤続者　安宅　智恵

◆人　事

昇任
楢崎久美子（大学教授）
妻木　陽子（大学教授）
加藤　美帆（大学教授）
紀村　修一（大学准教授）
川口早香美（法人事務局中高事務部事務長 兼 中高事務長）
清尾奈津美（法人事務局・大学経営企画部人事・会計課 会計担当課長）
住田　葉子（法人事務局・大学経営企画部人事・会計課 課長代理）
山岸　由佳（法人事務局・大学経営企画部人事・会計課 課長代理）
宮田　裕子（法人事務局経営企画部経営企画課主任 兼 大学経営企画部学長室主任）

任用替え
金　清洛（中高常勤講師（聖書）→中高教諭（聖書））
谷口　友香（中高常勤講師（数学）→中高教諭（数学））
白石　恵史（幼稚園教諭（任期付教員）→幼稚園教諭）
古本　紗也（幼稚園教諭（任期付教員）→幼稚園教諭）
島　有里咲（幼稚園教諭（任期付教員）→幼稚園教諭）

第37回 クリスマスコンサート「メサイア」のお知らせ

広島女学院クリスマスコンサート「メサイア」を開催いたします。ご家族お誘い合わせでご来場ください。

●日時／2023年12月17日（日）　時間未定
●会場／中学・高等学校ゲーンスホール
※詳細は決まり次第HPでお知らせします。

退職者あいさつ

（2023. 3. 31付）

幼稚園 園長
高田 憲治

奈良の基督教園より赴任したのは、国民生活白書において「少子化」という言葉が初めて用いられた2年後、1994年のことでした。少子化のさざなみが次第に大きなうねりとなり、激流へと変わる中で、選ばれる園となるためにチームゲーンスの一員として様々な挑戦の機会を与えていただいた29年間でした。その試行錯誤の営みを通して、一人ひとりの子どもが丸ごと受容され、安心して幼児期を過ごし、どの子も自分らしく育つことができる環境を創り出すことが何より大切だと学びました。全ての出会いとお支えに感謝します。牛田山の自然は、無限の可能性を秘めた豊かな教育資源。空の鳥、野の花を見なさいというイエス様の言葉がSDGｓ時代の学び舎の魅力づくりの鍵となると予感しています。

大学 管理栄養学科 教授
村上 和保

広島女学院大学には18年間の長きにわたりお世話になりました。退職するにあたり、数え切れないたくさんの忘れ難い思い出が胸に去来しています。ここでご縁を授かった方々とは、身は離れ形は変わっても、この先もずっと繋っていると信じています。皆様、本当にありがとうございました。

大学 共通教育部門 教授
澤村 雅史

外側をかすることさえできたかどうか。14年間お世話になりました。CUM DEO LABORAMUS.

大学入試部 入試課主任
濵井 正俊

約19年間の勤務となりました。振り返ると、楽しかった事や大変だったことがたくさんありました。でも困った時には、必ず誰かが助けてくれてなんとかここまで働く事ができました。貴重な経験を数多くすることができ、次のステージでも活かしていくことができると思います。本当に有難うございました。

法人事務局
経営企画部経営企画課職員 兼
大学経営企画部学長室職員
宮内 まどか

5年間という短い期間でしたが、母校である広島女学院で働くことができ、たくさんの出会いと愛に包まれて過ごすことができました。また、コロナ禍での対応やDX推進など、様々なことを経験させていただいたこと、心より感謝しています。大変お世話になりました。皆様のご健康とご多幸をお祈りしています。

大学入試部 入試課職員
田村 直也

2023年3月をもって学校法人広島女学院を退職することとなりました。

「だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」（マタイによる福音書7･8）、4年前の春に私を受け入れてくれた広島女学院は、多くの学びを与えてくれました。学院の益々の発展と教職員の皆様のご多幸を祈念いたしております。

大学実験実習担当
山岡 由貴

管理栄養学科の助手として、二度目の大学生活を過ごさせていただきました。学生時代には分からなかったことが多々理解でき、自分も管理栄養士として成長することが出来たと思います。この様な機会をくださった女学院大学に感謝申し上げ、今後の更なるご発展をお祈り致します。

大学実験実習担当
荒木 玲奈

5年間、大変お世話になりました。学生時代と合わせると9年、人生の1/3以上の年数を、広島女学院大学で過ごさせて頂きました。職員として過ごす大学もまた、学びに溢れており、学生と接する中で、私自身も成長したように感じています。最後に、広島女学院の益々のご発展をお祈り申し上げます。

中高教諭（聖書）
刀祢館 美也子

2000年前のイエスや目に見えない神に、今を生きる私たちがリアルに会えるわけではありません。何かを通して、だれかを通して出会うのだと思うのです。私は、生徒の皆さんの成長や変化、共に働く先生･職員の方々の姿を見ながら、この女学院に確かに神様の力、イエス様の愛が働いていることを実感させられてきました。ありがとうございました！

中高教諭（保健体育）
工藤 敬子

女学院に来た時に、私との入れ替わりの先生から、女学院はいい学校じゃけぇ、最後まで勤めなさいね！と言われて、37年間！1年ほど早く辞めることになりましたが…様々な人との出会いを通して、いろいろなことを学び、成長させて頂きました。本当に良い学校でした、感謝しかありません。生徒と共に一緒に楽しめた時間を誇りに思い、また次のステージを楽しんでいきたいと思います。皆様ありがとうございました。

中高事務長
石田　直子

短期大学部を卒業してすぐに女学院に採用していただき、教職員の皆様をはじめ多くの方々に助けていただいたお陰もあり、40年も勤めさせていただきました。心より感謝申し上げます。これからは一卒業生として広島女学院を外から支えて行ければと思っております。本当にありがとうございました。

幼稚園教諭
佐賀　玲奈

4年間幼稚園でお世話になりました。大好きな子どもたちに囲まれて過ごす毎日は、幼稚園教諭が夢だった私にとってとても幸せでした。そしてなにより、「ありのままを受け入れる」というキリスト教保育を実践する中で、子どもたちと共に私自身も大きく成長させていただきました。これからの広島女学院の益々のご発展をお祈りしております。ありがとうございました。

2022年度は記載の方々の他、次の方が退職されました。

- 中高教諭（国語）　坂井 隆司
- 中高教諭（養護）（常勤嘱託教育職員）　角田 萌花

2024年度 学生・生徒・園児募集要項　～キリスト教精神に基づいた教育を目指して～

大　学

募集人員

＜人文学部＞

国際英語学科	65名
日本文化学科	40名

＜人間生活学部＞

生活デザイン学科	65名
管理栄養学科	70名
児童教育学科	90名

大学院

募集人員（男女共学／社会人・外国人留学生可、定員は春季・秋季計）

＜言語文化研究科＞

日本言語文化専攻	修士課程	6名
英米言語文化専攻	修士課程	6名

＜人間生活学研究科＞

生活文化学専攻	修士課程	6名
生活科学専攻	修士課程	6名

●お問い合わせ先／広島女学院大学入試・広報課
TEL：082-228-8365（直通）

詳しくはHPをご覧ください
https://www.hju.ac.jp/examination/

こちらからアクセスいただけます

中学校（予定）

募集人員　200名（5学級）

●お問い合わせ先／広島女学院中学高等学校
TEL：082-228-4131

詳しくはHPをご覧ください
https://www.hjs.ed.jp/candidate

こちらからアクセスいただけます

幼稚園

募集人員　3歳児　60名
4歳児　若干名

●お問い合わせ先／広島女学院ゲーンス幼稚園
TEL：082-228-6635

詳しくはHPをご覧ください
https://gaines-kg.jp/

こちらからアクセスいただけます

広瀬ハマコ記念基金のご案内

広瀬ハマコ先生は、校母ナニ・B・ゲーンス先生から直接薫陶を受けられました。その期待に応えられ、園長、学長、院長、理事長として36年間に渡り、本学院発展のために尽力されました。

1988年にご召天。その後私財は先生のご遺言により本学院に寄附され、「広瀬ハマコ記念奨学基金」の制度が生まれました。基金の運用益をもって次の事業を行うと定めています。

1,本学院の教壇に卒業生の人材を確保するための奨学金を支給する。

2,留学を希望する内外学生、生徒の学費を援助し国際化を促進する。

応募については次の通りです。みなさま奮ってご応募ください。

●応募条件／本学（高校、大学）卒業生で国内外の大学院在学者
●選　　考／本人申請により3月・9月に行います

お問い合わせ／法人事務局管理部総務課へ
TEL　082-228-0386

同窓会からのお知らせ

広島女学院平和祈念式

●日時／2023年8月6日（日）10:00～
●場所／広島女学院中学高等学校 ゲーンスホール

同窓会バザー（中高文化祭）

●日時／2023年11月3日（祝・金）
●場所／ゲーンスホール前テント（バザー）
同窓会館（Café アイリス）
献品は一年を通じ受け付けております。
同窓会事務局までご連絡ください。

バイブルクラス（聖書を学ぶ会）

●日時／毎月第4水曜日
10:30～11:30（8月・12月休会）
●場所／広島流川教会 小礼拝堂
●内容／「ルカによる福音書」を中心にした学びと交わり
●講師／広島流川教会 向井希夫牧師

お問い合わせ／同窓会事務局
TEL・FAX　082-221-1059
（月）～（金）　10：00～15：00

こちらからアクセスいただけます

編集後記

5月8日をもって、新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類感染症に移行されました。緊急事態宣言の発令からおよそ3年、学校での教育活動は行事の中止や縮小を余儀なくされてきました。一方で、GIGAスクール構想によって生徒1人1台端末の整備が一気に進む等、デジタル化が大きく進展し、デジタル技術の良さを生かした多様な教育活動が生み出されています。コロナ禍を通じて再認識された学校の役割を踏まえつつ、新しい学びも取り込んだ教育活動がこれから展開されていくことでしょう。引き続き感染対策に留意しながら、広島女学院で過ごす時間を楽しみましょう。（中高・抹香加緒理）